

甲 第 号

藤本侑花 学位請求論文

## 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

|         |          |    |       |
|---------|----------|----|-------|
| 論文審査担当者 | 委員長      | 教授 | 杉江 和馬 |
|         | 委員       | 教授 | 矢野 寿一 |
|         | 委員(指導教員) | 教授 | 岡田 俊  |

### 主論文

Neural responses to gaming content on social media in young adults

若年成人のソーシャルメディア上でのゲームコンテンツに対する神経反応

Yuka Fujimoto, Junya Fujino, Daisuke Matsuyoshi, Daisuke Jitoku,

Nanase Kobayashi, Chenyu Qian, Shoko Okuzumi, Shisei Tei, Takehiro Tamura,

Takefumi Ueno, Makiko Yamada, Hidehiko Takahashi

Behavioural Brain Research. 2024 Jun 5;467:115004.

## 論文審査の要旨

過度なゲームプレイは、精神的健康および身体的健康の両方に悪影響を及ぼす可能性があり、近年深刻な社会問題になっている。本研究は、ゲーム関連動画を標的刺激として、ゲームに関連しない動画を対照に用いて fMRI を撮像しゲーム関連動画により誘発される神経活動を解析した。研究結果として、ゲーム関連動画により両側の内側前頭前皮質、海馬、視床、楔前部、右上側頭回で有意な活性がみられること、ゲームへの渴望と眼窩前頭皮質、上側頭回の活性が相関することを示し、ゲーム障害の背景をなす病態に示唆を与えた。公聴会では、ゲーム関連動画の視聴が 20 秒であることの妥当性についての質疑で、先行研究との比較とともに刺激強度や集中力との関連に言及しながら的確な回答を行った。視聴者のゲームへの依存リスクやゲーム関連動画の種類による差異については、即時報酬の指向性などの発達障害特性が依存形成と関連する可能性について述べ、臨床的視点も十分に持ち合わせていた。以上より、本研究は、精神医学行動神経科学において、今後ゲーム障害の診断基準や指標の確立に向けた新知見となる重要な成果を導き出し、公聴会での質疑と合わせて学位に値すると考える。

## 参 考 論 文

1. Explicit and implicit effects of gaming content on social media on the behavior of young adults.

Daisuke Jitoku, Nanase Kobayashi, Yuka Fujimoto, Chenyu Qian, Shoko Okuzumi, Shisei Tei, Daisuke Matsuyoshi, Takehiro Tamura, Hidehiko Takahashi, Takefumi Ueno, Makiko Yamada, Junya Fujino.  
Frontiers in Psychology. 2024 Jan 24;15:1332462.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに精神医学行動神経科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和6年12月10日

学位審査委員長

臨床神経筋病態学

教授                      杉江   和馬

学位審査委員

微生物学

教授                      矢野   寿一

学位審査委員(指導教員)

精神医学行動神経科学

教授                      岡田   俊